

花き産業において日本の切り花類の中でもキクは、出荷量の約40%を占める最も貴重な品目です。今回、交配などの従来の品種改良法では困難な「青いキク」を開発した野田先生にお話頂きます。是非ご参加下さい。お待ちしております。

- 日 時 2018年9月7日(金) 15:00~17:00
- 会 場 埼玉工業大学 30号館 3011講義室



## 花の品種改良技術—青いキクも実現可能に—

農研機構 野菜花き研究部門、上級研究員  
野田 尚信 氏

花の産業で重要な植物の品種改良では、様々な技術が開発され用いられています。本講座では、花持ちの向上、耐病性の付与やこれまでに無い形や色を持つ花の品種改良と、それを可能にする技術について、農研機構で開発したものを中心に紹介します。特にキク、バラ、カーネーション、ユリといった植物では、昔ながらの品種改良では青い花色を作り出すことができませんでしたが、それも可能になりました。そこで、青い花の発色のしくみと青いキクの研究についても紹介します。



お申し込み

申込書に必要事項をご記入の上、EmailかFAXでご送信下さい。

参加費無料

埼玉工業大学 産学交流セミナー事務局

Email : [sangaku@sit.ac.jp](mailto:sangaku@sit.ac.jp)

FAX:048-585-6896

セミナー要旨（2018年9月7日開催）

項目	記載欄
テーマ名	花の品種改良技術の最前線－青いキクも実現可能に－
講座内容	花の産業で重要な植物の品種改良では、様々な技術が開発され用いられています。本講座では、花持ちの向上、耐病性の付与やこれまでに無い形や色を持つ花の品種改良と、それを可能にする技術について、農研機構で開発したものを中心に紹介します。特にキク、バラ、カーネーション、ユリといった植物では、昔ながらの品種改良では青い花色を作り出すことができませんでしたが、それも可能になりました。そこで、青い花の発色のしくみと青いキクの研究についても紹介します。
受講後の効果	本講座で紹介する技術によって、花き園芸植物を中心に様々な作物で品種改良に役立ちます。また、これから実用化されるであろう新たな花きの情報を得ることができます。
対象となる受講者の仕事	特に問いません。
講師プロフィール、現在行っている研究内容の紹介	<p>野田 尚信（のだ なおのぶ）            農研機構 野菜花き研究部門 上級研究員 学位：博士（農学）</p> <p>【略歴】            平成12年 鹿児島大学大学院連合農学研究科 修了 博士（農学）            平成12年 青森県農林総合研究センター グリーンバイオセンター            平成19年 農研機構 花き研究所 新形質花き開発研究チーム            平成28年 農研機構 野菜花き研究部門 花き遺伝育種研究領域</p> <p>【主な受賞歴】            平成30年 茨城県科学技術振興財団 ベスト産業実用化賞            平成22年 茨城県科学技術振興財団 ベスト新分野開拓賞            平成16年 日本植物細胞分子生物学会技術賞</p> <p>【主な研究内容】花色成分の分析・色素生合成に関わる遺伝子群の解析・新形質花きの開発</p>
開催日時	2018年 9月 7日（金）15:00
会場	埼玉工業大学 30号館 3011 講義室
時間	15時～17時（発表は1時間程度）
定員 講座開講の最小人数	定員 _____ 制限なし _____ 講座開講の最小人数 _____ 5 名
その他	配布資料 無 写真撮影可否 否 服装などの注意事項があれば記載してください。（なし）